

令和 8 年

第 1 0 回教育委員会会議 議事録

秋田県教育委員会

令和 8 年第 1 0 回教育委員会会議 議事録

1 期 日 令和 8 年 5 月 2 2 日 金曜日

2 場 所 教育委員室

3 開 会 午後 2 時

4 閉 会 午後 4 時

5 出席者 教育長 安田 浩幸
委 員 奥 真由美
吉村 昌之
大塚美穂子
高橋 重剛

6 説明のための出席者

教育次長	鈴木 雄輝	教育次長	伊藤 悟
総務課長	清水 康成	高校教育課長	佐藤 嘉彦
生涯学習課長	内田 鉄嗣		

7 報告事項

- (1) 令和 9 年度秋田県公立学校教諭等採用選考試験の志願状況について
- (2) 令和 8 年度博物館学芸員の採用選考について

8 会議の要旨

【安田教育長】

ただいまから、令和 8 年第 1 0 回教育委員会会議を開催いたします。

本日の議事録署名員は 1 番奥委員と 5 番高橋委員にお願いいたします。

なお、5 番高橋委員はオンラインで出席しております。3 番松塚委員は本日欠席であります。

はじめに、報告事項の「令和 9 年度秋田県公立学校教諭等採用選考試験の志願状況について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

報告事項(1)「令和 9 年度秋田県公立学校教諭等採用選考試験の志願状況について」説明概要

- ・実習助手を除いた全ての校種の志願者数は 563 名となった。
- ・昨年度に比べて 8 名の減、採用予定者数は 232 名程度、志願倍率は 2.4 倍。
- ・志願倍率は前年度に比べ 0.2 ポイント低下
- ・昨年度新設した「大学 3 年生チャレンジ選考」の志願者は 175 名、昨年度に比べて 18 名の増加。
- ・大学 3 年生チャレンジ選考を含めた東京会場での受験予定者は 89 名。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【吉村委員】

去年から始めた大学 3 年生チャレンジですが、もう一度この仕組みややり方を教えてください。

【高校教育課長】

現在、大学3年生で、令和10年3月卒業見込みの者を対象とします。一定の基準に達した受験者は、選考通過者として翌年度の選考試験において受験する場合、第1次選考試験の全てが免除となる制度です。

【吉村委員】

去年、大学3年生チャレンジを受けて、今年その中からどれぐらいの方が応募していますか。

【高校教育課長】

昨年度始めた大学3年生チャレンジ選考ですが、通過者は全体で合計75名でした。そのうち今年度志願している方が63名です。約84%、8割以上の方が今年度新たに志願しています。

【吉村委員】

84%は良かったと思います。東京会場が89名と少し減っていますが、この点について分析していますか。

【高校教育課長】

去年より13名減となった原因については、特に思い当たるものはありませんが、今年度も周知の説明会はしている状況です。

【吉村委員】

東京会場ということで、東北ではなく関東などそれ以外の地域だとは思いますが、逆に言えば、秋田のことを知ってもらう機会が少なかったこともあるかもしれません。このように応募してくれないということは、他県に応募しているのか、秋田に魅力がなかったからなのかは分かりませんが。志願状況も中学校、高校、特別支援学校とも昨年度から減っており、特に中学校の20名減が結構大きく見えます。成り手が少ないということで、義務教育課や大学において毎年いろんな取組にチャレンジしていると思いますし、それは秋田のみならずどこでも同じだとは思いますが、なかなか増えないなと感じています。何かしら増える、魅力を感じてもらう手立てがあればなと思っています。とはいえ全体で8名減というのは、想像したよりは少なかったかなと思いました。

【高校教育課長】

補足します。中学校の受験者減については、講師の採用が増えてきているということで、一概に受験者が減ってきているわけではないものと考えています。現役学生と県外からの志願者についての数字をまとめていますが、現役学生や県外からの志願者も昨年を上回っているという点は非常に良い傾向、嬉しい傾向として捉えているところでした。

【吉村委員】

全体的には県外からも増えているということで、それは良かったなと思います。ただ、講師の採用が増えているというところが少し気になります。

【高校教育課長】

試験に現役の講師の先生が合格することで、講師が減っています。

【吉村委員】

全体の講師の数が減っているということですね。

【伊藤教育次長】

昨年度、中学校はその前よりも少し多く採用しています。それで、講師の人たちも多く合格

したということで、やはり前年度に採用数を増やすと、次の年の志願者が少なくなるという傾向はこれまでもありましたので、そういうことが現れているかもしれないと思います。

【吉村委員】

講師の方が少なくなってしまうということで、イレギュラーな時の対応が大変になってくるものと思います。

【奥委員】

チャレンジ選考についてですが、これは全国で結構聞かれるようになってきたと思っています。全国の自治体ではどれぐらいチャレンジ選考を実施しているのかということが一つと、もう一つは、大学には各事務局が通知や告知をしているのか、やはり学生が目にしやすいような告知の仕方というものがあるのかどうかについて教えてください。

【高校教育課長】

他県の状況については、調べているものの答えられる資料を今持ち合わせおりませんが、結構多いところを実施しております。PRなどの告知については、ホームページ以外では各大学へ要項やポスターを送付し、その中に大学3年生チャレンジ選考が載っていて、そこを見ていただくということになります。

【奥委員】

みんなが大学に送っているということは相当の数だと思いますが、実績ある大学に送っているということでしょうか。

【高校教育課長】

実績ある大学、来ていただいているところには送っていると思いますが、全部に送っているわけではありません。

【奥委員】

東日本の大学などでしょうか。可能であれば、いろんなところに告知できるといいと思います。

【吉村委員】

社会人特別については、日本初であり秋田県としてはもっと増やしたいという思いはあります。

【高校教育課長】

社会人特別について言えば、特色のある教員の採用は、我々にとっても現場にとってもすごく真剣味があって、良い活性化を生み出す選考だと思っておりますが、全体の採用がある程度限られている中では、県内で毎年受けている先生方も一定数いることを考慮すれば、社会人特別を多く採ることはできないのかなと思っています。例年、この枠を確実に募集と採用につなげているというところになるかと思います。

【吉村委員】

ネクストハイスクールの取組においても、社会人というある程度の専門的な知識を持っている方が必要になってくると思いますので、こういう枠で採用できるのであれば積極的に採るべきではないかと思ったりもします。

この枠の社会人は、教職の資格が2年間など短い期間で取れるようなことをするのでしょうか、それとも別の社会人経験など、免許がなくても受けられるシステムなののでしょうか。

【安田教育長】

実務経験や専門性を生かしての受験です。是非採用したいのですけれども、いかんせん受ける人がおりません。

【吉村委員】

そういう状況であれば、今後進めていくネクストハイスクールの取組は、秋田県全体で進めるというイメージもあると思うので、このような社会人特別、いわゆる免許がなくてもよい方が必ず必要になってくると思います。そういう枠は大事になってくるのではないのでしょうか。

【安田教育長】

我々も広報しながら、広く人材を募集していきたいと思います。またお気付きの点があれば後でも結構ですのでご意見等いただければと思います。今年度はこういう状況ということになります。

次に、報告事項「令和8年度博物館学芸員の採用選考について」、生涯学習課長から説明をお願いします。

【生涯学習課長】

報告事項（2）「令和8年度博物館学芸員の採用選考について」説明概要

- ・受付期間は、6月8日から7月6日までとし、第1次試験は8月6日に実施。
- ・採用職種は、博物館学芸員で採用予定人員は1名、勤務場所は県立博物館等。
- ・職務内容は、博物館その他教育機関での調査研究、企画展示、教育普及等の業務。
- ・受験資格は、大学または大学院で生物の植物分野専門課程を修め、学芸員の資格を有していること等。
- ・試験の種目及び内容は、第1次試験では専門試験と論文試験、第2次試験では適性検査と口述試験を行う。

【安田教育長】

ただいまの説明について、質疑等ございませんか。

【吉村委員】

博物館の学芸員は専門の職種なので、専門の資格が必要になってくるものと思いますが、例えば中学生や高校生、大学生が学芸員を目指したいと思った時に、この仕事を学ぶことのできる、例えばアルバイトのような機会はありますか。

【生涯学習課長】

学芸員の資格取得のため、県内出身の学生等については県内の美術館や博物館等の施設で実習を積んでもらう機会があります。他には、「わくわくたんけん室」という子どもたちが触れ合える、体験するようなコーナーもありますので、そういうところで小さい頃から自然や歴史に触れながら、企画展や色々な機会を通じて興味を持っていただければ、応募する機会も出てくるかと思います。しかし、毎年採用選考試験があるということでもありませんので、こういう過程を踏んで博物館の学芸員になれるといった具体的な周知については、今、話した内容にとどまると思っております。

【吉村委員】

とりあえず興味を持っている子どもが、企画展を見に行くだけではなくて自分が関われる機会があると意識が変わるので、最終的に学芸員になるかは別として、そのように学べる機会や接する機会があればと思ったところです。これは学芸員のみならず、美術館でも普通の仕事でも同じですが、結局自分がこういうものをやってみたいという時に、ただ見に行くだけではなくて中で関わることが一番大切なことと思って聞いてみました。

【生涯学習課長】

ボランティア団体等も中にありますので、そういう活動も周知しながら、できるだけ興味を持っていただけるような取組を今後もより一層進めていきたいと考えています。

【安田教育長】

世界遺産のボランティアなど、何かの機会にそういう取組も計画できるようであればいいと思います。

【吉村委員】

博物館単体というよりも、周りの仕組みなどを色々利用することも考えられると思います。キャンプなど野外の部分にも関わってくれるような人、ある意味ボランティアでもいいですし、そういうところが広がればいいと思います。

【安田教育長】

良いアイデアだと思うので、検討します。

予定された案件は以上ですが、他にございませんか。

特になければ、以上で本日の会議を閉じます。お疲れ様でした。